

No title available

Publication number: JP49038335
Publication date: 1974-04-10
Inventor:
Applicant:
Classification:
- International: B60R21/26; B60R21/26;
- European:
Application number: JP19720083692 19720823
Priority number(s): JP19720083692 19720823

[Report a data error here](#)

Abstract not available for JP49038335

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

特許願

昭和47年6月8日

特許庁長官 三宅幸夫 様

1. 発明の名称 電気応動制御装置

2. 発明者

〒100 東京都港区高輪2丁目1番1号
氏名 小堀保三郎

3. 特許出願人

郵便番号 100-0001
住所 東京都港区三田2丁目1番20号
保氏会社サー・アイ・シー
代表者 小堀保三郎

4.添付資料の目録

(1) 明細書 1通
(2) 図面 1通
(3) 説明書副本 1通
(4) () 1通

47-083692

方式審査

明細書

1. 発明の名称

圧力応動制御装置

2. 特許の請求範囲

1. 行走体の外板またはバンパーの定位に応動するピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室に連結する、流体回路に圧力抵抗部材を配設し、走行体に所定以上の減速度が作用したとき上記圧力抵抗部材が応動することにより、流体回路が開放され上記流体回路に嵌装された駆動フランジヤを駆動せしめることを特徴とする圧力応動制御装置。

2. 行走体の外板またはバンパーの定位に応動するピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室に連結した流体回路に所定の強度を有する封板を配設し、走行体に所定以上の減速度が作用したときに流体の圧力応動により封板が破れ流体回路が開放されるようにしたことを特徴とする特許請求を記す。

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑮ 特開昭 49-38335

⑯ 公開日 昭49.(1974)4.10

⑰ 特願昭 47-083692

⑯ 出願日 昭47.(1972)8.23

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

⑯ 日本分類

6774 36 80 K2
6600 36 80 B1

式の圧力応動制御装置

3. 発明の詳細な説明

1. 行走体の衝突事故に於ける衝撃の発生は外板またはバンパーの接触を第一歩とするものである。

この接触にて起る外板またはバンパーの定位をピストンを摺動自在に嵌装した非圧縮性流体を収容した流体室の流体回路に嵌装された駆動フランジヤの応動は衝撃である。

2. 駆動フランジヤの作用は走行体に所定以上の減速度が作用したときに於いてのみ上記の駆動フランジヤが駆動する構造のものでないと安全装置の機能は完全とはいえない。

流体回路と駆動フランジヤを連結した接点に所定以上の圧力が加えられたとき流体回路が開放されるような開閉装置を設け液圧の制御を行う必要がある。

本発明はこの開閉装置として液圧に対する抵抗部材例えば開閉扉の支持にバネの応力を用い所定以上の液圧が上記の開閉扉を支持する。

バネの応力を超えたとき上記のバネに支持された扉が開き流体回路が開放され荷重の低減により駆動的に連結されたフランジヤが駆動するものである。

2. 荷重に対する抵抗部材として封板を用いるとともに考えられる。

封板は荷重以上の減速度が作用したときピストンの運動にて封板の所定の強度を超える荷重にて封板が破れ、駆動フランジヤを嵌装した流体回路が開放されるものである。

非圧縮性荷重応動機器が単なる圧力応動の機構であるのに対し圧力応動に一定の基準を設けて作動を制御し、所定の減速度が作用したときに於いてのみ流体の伝導が行われことを必換とする非圧縮性機器の開発である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は自動車の衝突時に起る二次衝突から乗員を保護する安全装置に本発明の圧力応動制御装置を応用した配管の一例で、不作動時の側面を示し、(1)は自動車の車体、(2)は圧力応動制御装置。

示し、(3)は封板部上の縫で(4)に示す通り円の一部が欠けた状態で設けられていて荷重により封板部は構造の部分だけが破断し、(5)の部分によって元の附近に保持される。第2図は封板部の切断の詳細を示す。第3図は第2図の状態からバンパー(6)の圧力により封板部が破れて圧力応動制御装置が作動した状態を示す。

特許出願人 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小林 保三郎

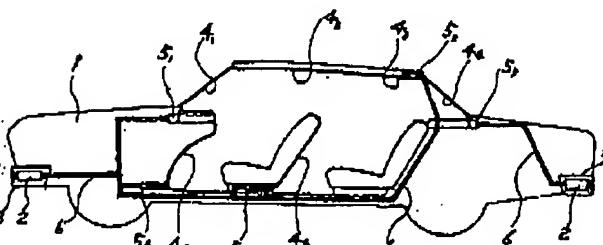
特開昭42-32335号
御装置、(3)はバンパー、(4)は、(5)は安全装置(バックリング弹性体)、(6)は安全装置(トル)、(7)を駆動するフランジヤ、(8)は流体回路の配管である。第3図は衝突時、第1図の圧力応動制御装置(2)により、安全装置(5)が(7)を駆動した状態を示す。

第4図は圧力応動制御装置(2)の詳細を示す不作動時の断面図で(9)は受圧部、(10)はピストン、(11)は筒、(12)は筒(11)の回転軸、(13)は回転軸(12)に接されたバネ、(14)は流体室、(15)はフランジヤ、(16)はフランジヤ(15)に固定されたピストン、(17)はマスク、(18)は流体で、(19)は回転軸(12)及びバネ(13)は圧力抵抗部材である。第5図は第4図の+/-断面を示す。

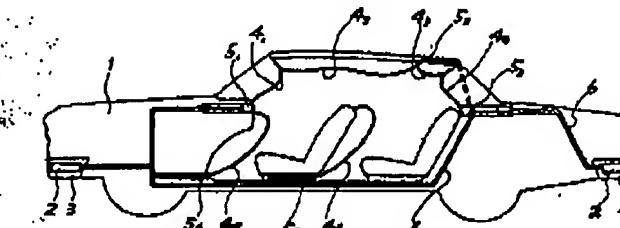
第5図は第4図の状態からバンパー(6)の圧力により部(10)が駆動した状態を示す。

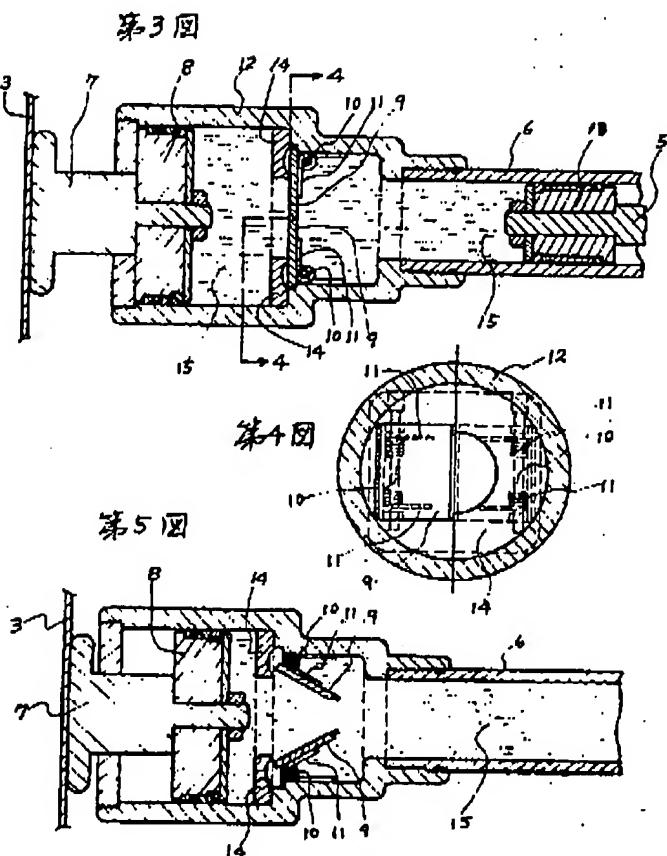
第6図は圧力抵抗部材として封板部を使用した例で圧力応動制御装置の不作動時の断面を示し、(2)は封板部を固定するためのリングネジ、(3)は流体室である。第7図は第6図の+/-断面を示す。

第1図



第2図





少 細 部 正 置

昭和 41 年 2 月 20 日

特許出願者 小堀 保三郎

1. 小作の表示 昭和 41 年特許第 065693 号

2. 発明の名称 圧力応動制御装置

3. 拡正をする者

小作との関係 特許出願人

住所(場所) 東京都渋谷区三田 4 丁目 11 番 20 号

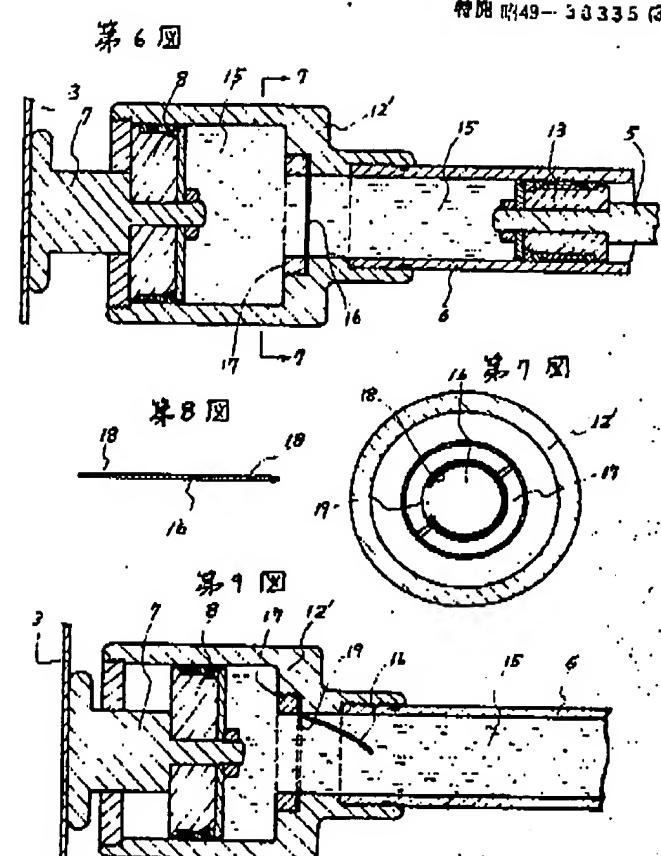
氏名(名称) 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小堀 保三郎

4. 拡正をする物件名 駆管

5. 拡正の内容

駆管を次の如く拡正する。

特許出願 (特許法第 88 条ただし
各の規定による特許出願)

昭和 41 年 2 月 20 日

特許出願者 小堀 保三郎

1. 発明の名称 圧力応動制御装置

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 2

3. 発明者

住所(場所) 東京都渋谷区三田 4 丁目 11 番 20 号
第一生命保険アパート

氏名 小堀 保三郎

4. 特許出願人

郵便番号 150

住所(場所) 東京都渋谷区三田 4 丁目 11 番 20 号

氏名(名称) 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小堀 保三郎

5. 顕示書類の目録

| | |
|-----------|-----|
| (1) 附 紹 喻 | 3 頁 |
| (2) 図 画 | 2 頁 |
| (3) 類似構本 | 1 頁 |